

D-11 児童の生活構造の時代的変遷に関する研究 (才了報) の2. 過疎地域における比較検討

大妻女大家政 ○鈴木真一, 石井とめる, 石橋みゆ之, 今井節子, 馬場吉三, 大石マリア, 大竹智恵子,  
関真知子, 仙波千代, 牛羽善代子, 伊井信義, 前川当子, 森上史朗, 八倉亜和子

目的. 過疎化現象は, 昭和40年代後半に入, てますます定着化するとともに, 多様化し, それにつれて児童をめぐる生活環境も複雑, かつ流動的になっている. 本調査は, 秋田地方でも過疎化の異ると想定された県の北部の上小阿仁村, 南部に位置する皆瀬村を対照的に選り, なお, 最近, 東北地方に典型的に発現している純農村タイプとして神岡町を抽出して, 児童をめぐる生活環境の多様性を典型的に捉えようとした.

方法. 現地聴取および資料による検討.

結果, 三地域の概括的な把握として, 自然的条件, 産業と土地利用, 人口流動, 教育・医療をメルクマールとして比較検討し, 次に, この三地域に認められる児童の生活環境に関連することとして, 家族形態, 出稼み状況, 母親の就労状況などをとりあげ, その共通事項と相異事項を索出した.